

誰もが移動しやすい、持続可能な交通サービスの確保へ

1. 公共交通の維持・確保の取り組み

現在の市内公共交通は、鉄道、路線バス、タクシー、コミュニティバスなどが運行しています。しかし、少子高齢化や生活スタイルの変化などにより、公共交通の利用者が減り、路線の維持・確保が困難となってきています。市では、地域鉄道の運営や支援、採算が取れないバス路線への補助をして、移動手段の維持・確保を行っています。



2. 自動運転サービスの実現に向けた取り組み

自動運転の技術は、交通事故削減や渋滞緩和といった交通安全面だけでなく、運転手の担い手不足に直面する地域公共交通の維持・確保の観点からも効果が期待されています。

市では、令和元年度から自動運転の実用化に向けた実証実験を行っています。



自動運転のイメージ



令和元年6月に市役所と桑名駅間で自動運転バスが走行しました



運転手は手動介入できる体制でハンドルから手を放して乗車



令和2年9月に大山田団地で行われた自動運転バスの実証実験

3. AI 活用型オンデマンドバスの取り組み

※オンデマンドバスとは、利用者が希望する乗車日時や出発地、目的地に応じて柔軟に運行する新しいスタイルの乗り合いバス。

現行のコミュニティバスの利用者から、「運行本数が少ない」「目的地までの乗車時間が長い」「乗り継ぎの接続がうまくいかない」「時刻通りに乗車したい」「バス停の増設をしてほしい」など、多くの意見をいただいています。

AI 活用型オンデマンドバスは、既存のコミュニティバスとは異なり、利用者が必要な時にアプリや電話で呼べる乗合型の交通サービスで、システムが乗り合い状況や道路状況に応じて車両に効率的なルート案内をします。決まったダイヤはなく、利用者の目的に合わせて適宜ルートを設定しながら運行します。

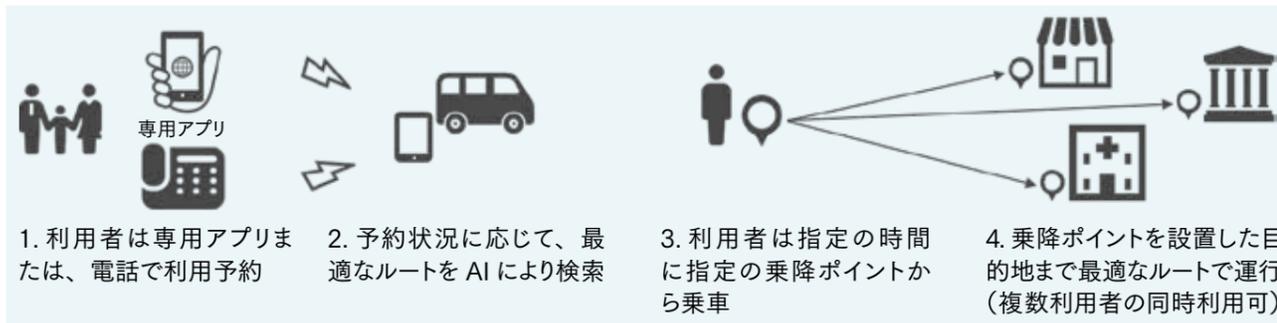
公共交通の利便性向上と安定的・効率的で持続可能な移動手段として期待できます。

市では、令和4年1月31日(月)からAI 活用型オンデマンドバスの実証運行を行います。

詳細は6～7ページをご覧ください。



オンデマンドバス(イメージ)



令和2年9月に行った自動運転実証実験

公共交通の維持・確保

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う外出自粛の影響により、公共交通機関の利用者は大きく減少しています。こうした中でも皆さんの移動手段を確保するため、交通事業者が事業を継続できるための仕組みを考えていく必要があります。

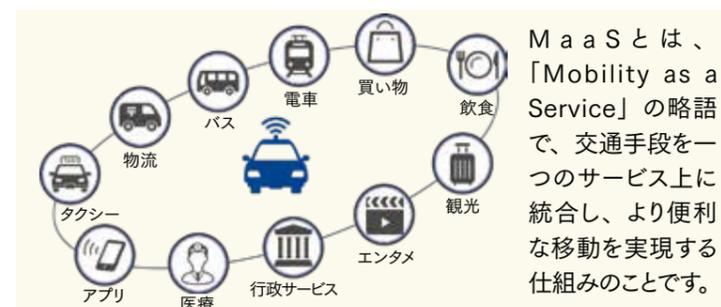
移動の目的や手段の多様化

人々のライフスタイルが多様化する中で、移動の目的や手段も多様化しています。誰もが目的地まで便利で安全に移動することができるよう、新たな公共交通のあり方が求められています。

高齢化に伴う運転免許証返納者の増加

高齢ドライバーによる痛ましい交通事故が社会問題として取り上げられており、運転免許証返納者が増加しています。このため、自家用車を運転することができなくなってからも、移動に困らないような仕組みを講じていく必要があります。

次世代モビリティと既存のサービス事業が連携した「MaaS」の取り組みを推進



MaaSとは、「Mobility as a Service」の略語で、交通手段の一つのサービス上に統合し、より便利な移動を実現する仕組みの事です。

5年後のめざす姿

3つのミッション No.2

公共交通

人が移動しやすく交流できる、元気なまちになっています。

課題は？

人口減少や高齢化の進展により、公共交通の維持や運転免許証返納者の移動手段の不足が懸念されています。一定の距離に駅やバス停がない地域の解消も合わせて、公共交通のあり方について見直す時期がきています。



SDGsとは、2030年までに持続可能でよりよい世界をめざす国際目標です。17のゴール・169のターゲットで構成されています。市でも「誰一人取り残さない」まちづくりを進めていきます。

公共交通

電車やバスを使いたい人が増え、移動が便利になり、社会が活性化します。

- 移動しやすい交通の維持・確保
- MaaSの取り組みの推進
- 公共交通の利便性向上

5年後のめざす姿



- 移動しやすい交通の維持・確保
- 環境に配慮した交通サービスの実現
- MaaSなどの新たなモビリティサービスの導入

指標

市民満足度

市民満足度調査における公共交通の満足度向上をめざし、コミュニティバスの利便性を高めます

5年後増加へ

平成30年度実績 **55.5%**

市民が取り組みます！



- 公共交通の利用を進める取り組みに、理解と関心を持ちましょう。
- バス・鉄道などの公共交通を積極的に利用しましょう。
- 過度に自動車に依存せず、公共交通を利用し、環境に配慮した生活を心掛けましょう。

市が取り組みます！



- 移動しやすいまちづくりのため、公共交通の維持・確保に努めます。
- 公共交通の利便性向上のため、新たな交通体系の構築も含め、改善に努めます。
- まちづくりの観点から、MaaSや自動運転などの新たな交通の社会実装に向けた検討を推進します。

MaaSによるサービス提供(イメージ)



目的地

出発地から目的地までの一つのサービスを専用アプリで検索・予約・支払いまでできます！

全国的には、車を移動診療車として活用し、オンラインで服薬指導や薬剤の配送を行う仕組みや、地域の商店と連携し、バスを利用することでお買い物のクーポンが入手できる仕組みなどが研究されています。

(MaaS推進室)

A Q

Q MaaSによって私たちの暮らしはどう変わるんですか？

A これまでの交通サービスは、電車やバス、タクシーなどをそれぞれ単体で考えていましたが、MaaSが進むことでさまざまなサービスと連携することができるようになります。交通サービスの利用そのものが便利になることから、外出しやすい社会になることが期待されています。

市民編集員の
「これも聞きたい」



現在

実用化に向けた自動運転実証実験

市では、令和元年度からこれまでに2回、公道での自動運転実証実験を行いました。多くの方が自動運転に不安を感じていましたが、実際に乗車していただくと、不安が解消されたとの声が大多数で、自動運転の技術の高さを感じてもらうことができました。

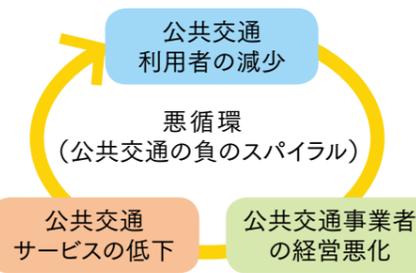
引き続き実用化に向け、課題などを整理し、市に合った導入のあり方を検討していきます。



過去

公共交通の利用者の減少

地域公共交通をめぐる状況は、自家用自動車へのシフトや少子高齢化による人口減少などにより、利用者が減少し、負のスパイラルに陥っています。



この記事に関するお問い合わせは、秘書広報課へ (☎ 24-1492 FAX 24-1119)

市長とみんなのネクストビジョン Next vision 3つのミッション No.2 公共交通



今月の特集は「公共交通」です。市民満足度調査の結果から、公共交通は、市民の皆さんにとって重要度が高いのに満足度が低い分野ですので、市としても重点的に取り組みを進めています。

桑名市を含む東海地方全体が、車利用を前提とした暮らしが基本の、いわゆる「車社会」となっています。自家用車があれば、スイスイと自分が行きたいところに自由に移動できるのですが、自

動車運転免許を持たない若者や、免許を返納した高齢者など、日常的に移動が不便な人たちのために必要不可欠なのが、公共交通です。

市内には、鉄道や路線バス、タクシー、コミュニティバスなどの公共交通がありますが、人口減少などを要因として利用者が減っています。だからといって、その路線をやすやすと廃止できるわけがありません。今使っている公共交通がなくなると、たちまち移動手段を失う人が続出しますので、まずはなんとか維持させなくてはなりません。そのような思いから、市としても、地域鉄道の運営や支援、採算が取れないバス路線への補助をしています。つまり税金を投入して、移動手段の維持・確保を行っています。目に見えないところで、市は公共交通をしっかりと支えているのです。

世の中は大きく変わりつつあります。これからは新しい技術を活用して、市民の皆さんが、移動しやすい交通体系を考えていく必要があります。

一昨年、昨年と、自動運転バスの実証実験を実施しました。いわゆるレベル2と、言われる段階の自動運転を、多くの人に体験いただきました。専門家からは、地域の人々が自動運転を受け入れることができるかどうかがカギになる、と言われていていますので、一歩進んだかなと考えています。

今年度はAI活用型オンデマンドバスの実証実験を一部の地域で行います。オンデマンドバスとは、利用者が予約した日時や乗降場所に合わせて運行するバスのことで、利用者が使いたい時に行きたい場所に行けるようになります。新技術も活用しながら、誰もが移動しやすいまちづくりをめざしてまいります。

